

## メッセージアウトライン ヨハネ15：9~17「愛の中にとどまる」

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい」(9) 愛はすべての戒め、律法を全うするものである。→ローマ13:8~10 互いに愛し合うということがイエスの戒めであり、それを守る者はイエスの愛の中にとどまることになるのである。(10) それは父なる神とイエスとの関係と同じであった。父なる神の戒めを守り、従うことはイエスにとって重荷ではなく喜びであった。そして弟子たちが互いに愛し合うというイエスの戒めを守り、イエスの愛の中にとどまるなら、弟子たちもイエスと同様な喜びに満たされることになるのである。(11) イエスが弟子たちを愛されたように、弟子たちも互いに愛し合うこと、これこそイエスが与えられた新しい戒めなのである。(12) 弟子たちがイエスの愛を守り、互いに愛し合って、愛の中にとどまるならば、そこに豊かな祝福があり、弟子たちは喜びに満たされることになる。これは物やお金では決して満たすことのできない喜びである。これはイエスの十二弟子だけではなく、イエスの戒めを守ろうとするすべてのクリスチヤンにも与えられている約束である。

「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません」(13) このすぐ後、イエスご自身が十字架においていのちを捨てられ、その愛とはどういうものかを示された。→ローマ5:6~8, I ヨハネ4:9~12 しかしそれは向こう見ずに自分のいのちを軽んずるということではない。そうではなく、イエスが私たちを愛してくださったように、私たちも見返りを求めないで助け合い、支え合い、祈り合い、仕え合って、喜ぶ者と共に喜び、悲しむ者と共に悲しむこと(ローマ12:15)である。そのようにして神の教会を形成していく時にこそ、世の人々は私たちが互いに愛し合い、イエスの愛にとどまり、イエスの戒めを行っていることを知るようになるのである。

弟子たちがイエスが命じられたことを行うならば、イエスは弟子たちを「友」と呼ばれる。その理由はイエスが父から聞いたことをすべて彼らに教えられたからである。(すべてといつても彼らが理解できる範囲で)(14~15)これはすばらしい特権である。弟子たちは自分の意志でイエスを選びイエスに従ってきたという思いがあったかもしれないが、実はすべてはイエスが選び、弟子として定めてくださったので彼らは弟子となったのである。神が選ばれた者は必ず救いに入れられる。そして彼らがこのように選ばれたのは、行って実を結び、その実が残るためであった。(16)

私たちは何の実も結ばないために選ばれたのではなく、豊かな実を結び、神の栄光を現す者となるために選ばれたのである。しかしそれは自力で頑張るのではなく、「あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです」と約束されているように、実を結ぶために父なる神に祈り求め、それをかなえていただくことができるのである。

私たちが互いに愛し合い(17)、イエスの愛の中にとどまることによって、喜びに満たされ、自力では決して達成することのできない麗しい教会の交わりを築き上げることができ、この世に出て行って豊かな実を結ぶ者となれるのである。